



防災教育は「未来を拓く」教育です

6月17日(月)5年生は、「大川伝承の会」代表の佐藤先生のご協力をいただいて、オンラインで石巻市と本校を結んだ防災学習を行いました。佐藤先生は、2011年の東日本大震災において被災し、深い悲しみを経験されました。その後、「小さな命の意味を考える会」を立ち上げ、「あの悲しみ」を繰り返したくないとの思いで、「あの日」を語り、防災教育に力を注いでこられました。佐藤先生の経験してきたこと、先生の思いを5年生の子どもたちはしっかりと受け止めて、真剣に聞き入っていました。

この学習には、地域の自主防災組織の役員でもある学校運営協議会委員の方々や保護者も参加して、一緒に学んでくださいました。学びの中で、防災は、「地域をつなぎ、未来を拓く」学習であることを教えていただきました。寒川の地域の方と共に、地域や自分の大切な人を守ることができるよう、自分で考え、自分で判断し、主体的に行動する生き方を育てていかなければならないと強く感じたオンライン学習でした。



避難訓練 — 「垂直避難」・「水平避難」

寒川地区は、かねてより防災意識が高く、自主防災組織も平成19年の西寒川自主防災会結成をスタートに、現在は4地区ともあります。本校では、昨年度に「学校防災教育実践モデル地域研究事業」の指定を受け、様々な教育実践を積み重ねてきました。全校児童が防災頭巾を備えたもの、市内で一番早い取組です。

6月19日の避難訓練もこれまでの学びの積み重ねが感じられる避難訓練となりました。今回は、二つの異なった災害を想定しての避難訓練を行いました。

本校は、土砂災害警戒区域内にあり、集中豪雨や地震の際には土石流等の危険が高まります。そこで、今年から、高い場所への「垂直避難」も訓練に加えることにしました。3階の児童はそのまま待機ですが、2階の児童は3階廊下へ、1階の児童は安全性の高い北校舎の2階へ避難することとしました。初めての訓練でしたが、スムーズに移動できました。

二つ目の訓練は、地震から火災が起きた想定での水平の避難訓練でした。静かに放送を聞き、何が起こったのか、どう行動すればいいのか即座に把握し、素早く防災頭巾をかぶり、運動場に避難できました。真剣な態度に大変感心しました。これからも、自分で判断し、自分の命は自分で守る力がつくよう実践を積み重ねていきます。

